



新規口座開設限定

BTCC口座開設&入金で、最大**17500USDT**が獲得できる。
お友達を紹介するとさらにボーナスをプレゼント!

今すぐ口座開設/詳細はこちら

イーサリアム(ETH)とは？基本事項や特徴をわかりやすく解説

原文:

<https://www.btcc.com/ja-JP/academy/crypto-basics/eth>



世の中にはイーサリアムという暗号資産（仮想通貨）に興味を持つ方が多いでしょうが、その特徴について詳しくしている人は少ないのではないのでしょうか。そこで、今回は仮想通貨イーサリアム(ETH)の基本事項や特徴について丁寧に分かりやすく解説していきます。

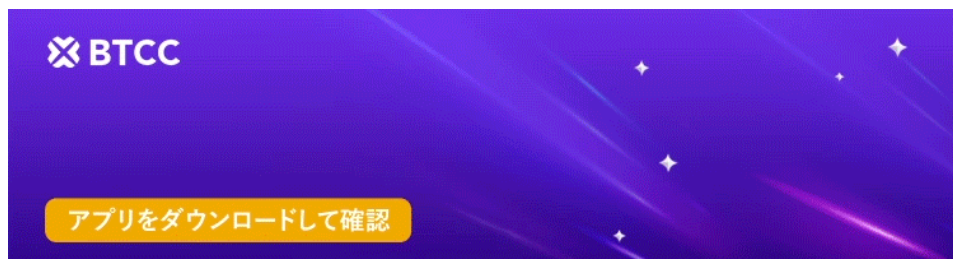
いま注目されるアルトコインとして、イーサリアム(ETH)はビットコインとは違った特徴を持っています。高い将来性から多くの投資家や経営者の方達に支持されています。

イーサリアムとは？

イーサリアムとは、スマートコントラクト機能を備えた分散型アプリケーションプラットフォームとして、ヴィタリック・ブテリン（Vitalik Buterin）氏によって開発された。このプラットフォーム内で使用する仮想通貨をイーサと呼ばれています。通貨単位はETHです。イーサリアム(ETH)は2015年に登場し、ビットコインに次いで「時価総額2位」を誇っており、抜群の知名度・人気を誇っている暗号資産です。

イーサリアム(ETH)は[ビットコイン\(BTC\)](#)や他のアルトコインとは少し異なる特徴を持っています。例えば、ビットコイン(BTC)が決済通貨なのに対して、イーサリアムは「プラットフォーム型通貨」という立ち位置を付けられます。また、ビットコインの発行上限は2100万枚だが、イーサリアム(ETH)は発行上限がありません。さらに、ビットコイン(BTC)はブロックチェーン技術によって取引記録を管理している一方で、イーサリアムは取引や送金などを自動化して設定できるスマートコントラクト技術を採用している。

イーサリアムの特徴から高い将来性を市場参加者や仮想通貨企業にもものすごく期待されています。現在はビットコインが最も取引量が多くメジャーな仮想通貨ですが、今後何年かでイーサリアム(ETH)が追い抜く可能性もあります。



[Google Playで手に入れよう](#)

[App Storeからダウンロード](#)

[日本ユーザー様限定特典（10,055USDTギフトパック） <<<<](#)

イーサリアムの特徴

イーサリアムの特徴:

- ① [スマートコントラクトを採用している](#)
- ② [独自トークンを発行することができる](#)
- ③ [Dapps\(分散型アプリケーション\)の開発を容易にする](#)

①スマートコントラクトを採用している

イーサリアムはユーザーが独自に定義した要件を自動実行するスマートコントラクト技術を採用しているのが大きな特徴のひとつです。

スマートコントラクトとは取引や送金などを自動化して設定できる技術のことを指します。仮想通貨の

トップを走るビットコインにはない機能を多く備えています。スマートコントラクトが多くのサービスに実用化されれば、直接お金のやり取りを行わなくても、安全に取引することができ、取引情報はブロックチェーン技術によって守ることができます。例えば、「1年後に口座にある1 ETHをAさんに送金する」という要件をブロックチェーン上に記録することができ、自動的にその要件が実行されるという技術です。

[ブロックチェーン](#)には「記録した情報の改ざんが不可能」という性質がありますので、しっかりと情報の信頼性を担保することも可能となります。このように第三者を必要とせず、効率的な取引を行うことができる特徴を保持しており、この技術は様々な分野に応用されていくことが期待されています。

例えば、オンライン決済で主要な取引方法は現在クレジットカードを用いた方法ですが、近い将来オンラインでの取引方法はスマートコントラクトを利用するようになる可能性が高いでしょう。また、スマートコントラクトが普及すれば、人間を介して契約を行う必要がなくなりますので、企業側からすれば「人件費削減」などのメリットを受けることもできます。

スマートコントラクトは2021年より急成長を続けています。[DeFi\(分散型金融\)](#)や[NFT\(非代替性トークン\)](#)における分野でも、イーサリアムのブロックチェーンが利用されており、今後も広い分野で活躍の幅を広げると言われているくらいです。

② 独自トークンを発行することができる

イーサリアム(ETH)は独自トークンを発行できる特徴があります。トークンとはブロックチェーン上で発行され、所有者が権利を持っていることを証明するものです。新しい仮想通貨(トークン)をイーサリアムのプラットフォームで発行できます。つまり、イーサリアムを使えば、企業や個人が独自の暗号資産を発行できます。

イーサリアムは「ERC20」というある一定の規格を用いて発行されており、この規格を用いればとってもカンタンに新規通貨を発行することが可能です。

新しいトークンを発行できるイーサリアムの特徴は、ICOと呼ばれる資金調達手段に利用され、新規企業や投資家から注目されています。

③ Dapps(分散型アプリケーション)の開発を容易にする

イーサリアムはDappsという分散型アプリケーションを開発できるプラットフォームとして利用することができます。

Dapp（分散型アプリケーション）とは、中央集権者がいないアプリケーションシステムのことを指します。スマートフォンやノートPCのアプリのようなもので、ブロックチェーン技術を活用して、ユーザーデータを大手IT企業などの手に渡らないようにするというユニークな特徴がある。アプリケーションのデータや仕様変更は利用者全員が意思決定に参加することが可能です。

中央集権者が存在するシステムの場合ですと、内部側からの不正等が発生することが十分に考えられます。一方で「**Dapps**」と呼ばれている分散型アプリケーションシステムであれば、内部からの不正等の心配もありませんので、より公平にそのシステムを利用することが可能になります。

イーサリアムブロックチェーンは現状、**Dapps（分散型アプリケーション）**の基盤ブロックチェーンとして圧倒的なシェアを占めています。スタートコントラクト当初、イーサリアムの主要な目的の1つは、**Dapps**の開発を容易にすることでした。